

# 科学技術・学術審議会答申「長期的展望に立つ海洋開発の基本的構想及び推進方策について(答申)」 フォローアップ(概要)

## 答申の内容

我が国における海洋政策のあり方:  
 ○「海洋を知る」「海洋を守る」「海洋を利用する」のバランスのとれた政策へ転換すること  
 ○国際的視野に立った戦略的な海洋政策を実施すること  
 ○総合的な視点に立って、我が国の海洋政策を立案し、関係府省が連携しながら施策を実施すること

具体的施策  
 海洋研究…気候変動メカニズム解明のため観測を継続、保全・利用のための海洋研究  
 海洋保全…閉鎖性海域・沿岸域の水質保全、海岸侵食防止、生態系の保全  
 海洋利用…海洋生物資源、海洋鉱物・エネルギー資源の研究、開発、利用促進  
 海洋基盤整備…海洋教育の推進、海洋情報の流通、国際化の推進

## 最近の海洋に関する情勢(答申(H14.8)～現在)

海洋基本法の制定、総合海洋政策本部の設置、第3期科学技術基本計画及び分野別推進戦略の策定、  
 国連に提出するための大陸棚調査、日本の科学掘削船による統合国際深海掘削計画の推進 など



「海洋を知る」をベースとした「海洋を守る」「海洋を利用する」のバランスのとれた政策、  
 総合的な管理を目指すことが重要

答申における  
 目標

### これまでの主な取り組み状況の例

### 最近の海洋に関する主な課題

### 今後、重点的に取り組むべき方向の例

海を知る

- 自然現象のメカニズム解明
- 新たな知見を海洋保全と利用に役立てる
- 青少年の海洋への興味関心を高める

【未知の領域への挑戦】  
 平成17年に科学掘削船「ちきゅう」が完成、平成19年からIODPの枠組みにおける科学掘削を開始  
 【地球環境問題解決、自然災害予防に資する研究推進】  
 研究船、フイ等を用いた観測により長期的に海洋データを取得し熱・水・物質循環過程を解明、そのデータをもとにスーパーコンピュータにより地球環境の予測を行い、気候変動に関する政府間パネル第4次報告書へ貢献した  
 【研究開発体制、インフラストラクチャーの整備】  
 海洋研究に必要な研究船等の大型施設・設備を着実に整備

○海洋の中深層、深海底の海洋動態、生物活動、海底変動について依然として未知の部分が多い  
 ○地球温暖化による地球環境への悪影響、国民の不安増大

【未知の領域への挑戦】  
 国家基幹技術を推進することで南海トラフでの科学掘削を着実に進め、海溝型地震メカニズムを解明するとともに地殻内微生物を発見するなど、海洋の知の拡大とフロンティアへ挑戦  
 【地球環境問題解決、自然災害予防に資する研究推進】  
 戦略重点科学技術を推進することで地球環境の予測モデルを精緻化し、気候変動に関する政府間パネル第5次報告書への貢献を目指す  
 【研究開発体制、インフラストラクチャーの整備】  
 海洋研究に必要な研究船等の大型施設・設備を引き続き着実に整備

海を守る

- 健全な海洋環境を実現する
- 持続可能な海洋利用を実現する
- 美しく安全でいきいきとした海を継承する

【海洋環境の維持・回復に向けた総合的な取り組み】  
 閉鎖性海域の汚濁負荷を削減するため各湾において再生のための行動計画を作成  
 【海洋環境の維持・回復に向けた総合的な取り組み】  
 流出油の防止のためタンカーの船底を二重にする措置を推進  
 【沿岸防災等における海洋環境に配慮した取り組み】  
 堤防等の着実な整備による津波・高潮・海岸侵食対策を推進

○沿岸域では空間・資源の利用が進み、環境汚染や生態系破壊が深刻な状況  
 ○周辺海域において重大海難事故の発生等、海上輸送の安全確保の問題  
 ○海面上昇等により高潮災害や海岸侵食の増大が懸念

【海洋環境の維持・回復に向けた総合的な取り組み】  
 閉鎖性海域の再生のための行動計画に基づき、陸域からの汚濁負荷を削減するとともに海域の環境改善を行いモニタリングを充実  
 【海洋環境の維持・回復に向けた総合的な取り組み】  
 国際海事機関による二重底推進の決議の発効に向け取り組みを強化  
 【沿岸防災等における海洋環境に配慮した取り組み】  
 ハード・ソフト一体となった災害対策などの取り組みを強化

海を利用する

- 環境保全との調和を図る
- 総合的な管理を行う
- 異なる分野の利用施策の連携を行う

【海洋生物資源の利用】  
 漁場改善計画の策定の促進、低環境負荷飼料の開発等による持続的な養殖生産の推進  
 【海洋鉱物・エネルギー資源利用】  
 国連海洋法条約を踏まえた大陸棚の調査を着実に推進  
 【海洋鉱物・エネルギー資源利用】  
 メタンハイドレート、マンガン団塊、海底熱水鉱床、コバルト・リッチ・クラストについてそれぞれ開発を推進

○食料安全保障による食糧自給率の増大が重要であり、水産資源の持続的利用が重要  
 ○資源に乏しい我が国が海底・海底下にある資源に着目することが重要  
 ○海洋の保全、国際貢献に留意することが重要

【海洋生物資源の利用】  
 漁場改善計画の策定の促進、漁場環境負荷の軽減技術、炭素や窒素の物質循環を可能とする魚類養殖と藻類養殖を組み合わせた複合養殖技術の開発を実施し、生物多様性を保持  
 【海洋鉱物・エネルギー資源利用】  
 平成21年までに大陸棚の限界についての詳細を科学的・技術的裏付けと共に大陸棚限界委員会に提出し、その勧告に基づき200海里を超える大陸棚の限界を設定する  
 【海洋鉱物・エネルギー資源利用】  
 メタンハイドレート、マンガン団塊、海底熱水鉱床、コバルト・リッチ・クラスト等の資源調査を進める際には、国際的なルールを遵守し、環境影響評価にも留意するなど環境に配慮した開発を実施

海洋政策全体の基盤整備

- 「知る」「守る」「利用する」のバランスのとれた政策を行うため連携する
- 総合的な管理を行う

【人材の育成、理解増進】  
 東京商船大学と東京水産大学が統合して「東京海洋大学」が設立され、大学等の名称に「海洋」という名称を入れるなど、海洋に関する教育が社会に理解されるよう取り組んだ  
 【情報の流通】  
 日本海洋データセンターにおいて水温、塩分等の各種海洋データを品質管理しホームページで公開した  
 【総合的な視点に立った海洋政策の企画・立案システム】  
 総合海洋政策本部の設立

○市民の「海洋」に対する関心を高めることが重要  
 ○海洋の管理、利用が我が国の将来の生活基盤を支える重要な問題の1つとして認識。  
 ○海洋に関する基本情報を迅速・容易に入手できることが重要

【人材の育成・理解増進】  
 水産系の高校では、現在進められている学習指導要領の見直しの中で、教育内容の充実を図る  
 海洋を専門とする大学のみならず総合大学においても海洋教育研究に関する総合的な取り組みを推進  
 【情報の流通】  
 我が国の海洋データの一元的な管理・提供や世界各国とのデータ・情報交換の一層の推進  
 【総合的な視点に立った海洋政策の企画・立案システム】  
 総合海洋政策本部を中心とした政府による海洋基本計画の作成

「海洋を知る」をベースとした「海洋を守る」「海洋を利用する」のバランスのとれた政策、総合的な管理の実現へ